

出雲地区

保護司会だより

第30号

地域における自主防犯機能の崩壊

そして復活へ

出雲警察署長

荒 薦 章 一



昭和四〇年代、未来を担う大事な宝である子供たちは、「地域の人、一人一人が親となって、地域で育てる」「地域の安全は地域で守る」といった地域における自主防犯的な機能が維持されてきました。

隣に住む人が誰か、何を生業としているか、何人家族かなど、お互いが当たり前のように素性を知っており、犯罪を犯そうとする者が居たとしても地域の住民の目を気にして思いとどまる、小さな罪を犯した段階で住民の誰かに咎められる、結果として重大犯罪を未然に防止するなど、地域自体が一定の犯罪抑止機能を果たしていました。

昭和の時代から平成の時代に入ると、日進月歩どころか秒進分歩の勢いで時が流れ、インターネット等の普及に伴い、良い情報、悪い情報、ありと

あらゆる情報が、都会や田舎の区別なく、瞬時に全国、いや全世界に伝わる時代となってきました。また、核家族化や人々の意識の変化も相まって、昔ながらの古き伝統や濃い人間関係を嫌い、利己主義的な個人主義が大手を振って、「唯我独尊 隣の人は何する人ぞ」といった希薄な人間関係が重宝がられて時代は流れていきました。

このような時代の風潮と共に平成八年以降、日本の安全神話は崩壊し、治安は悪化の一途をたどり、治安のパロメーターである刑法犯認知件数は、全国は平成十四年、県内は平成十五年に過去最悪を記録することとなってしまいました。しかし、その後は全国、県内ともに減少傾向に転じ、昨年は過去最少を更新、そして今年もさらに減少することが予想されています。

なぜ減少傾向に転じたのか、これは、治安維持を担う警察だけの力では到底成し得るものではありません。最も大きな力となったのは、このままではいけないと立ち上がった地域住民の方々です。「地域の安全・安心は地域で守

る」と多くの方々が立ち上がり、子供見守り隊や青パト隊をはじめとしたボランティア団体が次々と出来上がりました。特にここ出雲市の青パト車両台数は、七〇〇台を超え、県内随一、全国でもトップクラスにあります。防犯ボランティア団体も各地区に張り巡らされ、四二団体約三、三〇〇人の方が参加、その活動も他の市町村に類を見ないほど活発にいただいております。

まさに、地域における自主防犯機能の復活です。

私は、春先の着任の際に、署訓に「恕」を掲げました。中国の思想家孔子が、弟子に「人生で最も大切なことは何でしょうか」と聞かれたとき、「それは恕かな。己の欲せざるところ 人に施すことなかれ」と答えたと言われています。人を思いやる優しい心、自分がされたくないことは人にするべきではない。職員に対して、「警察は、悪には力強く毅然とし対峙しなければならぬが、常に恕の精神を以て物事に当たれ」と指示をしているところでありました。

今年も残りわずかとなりましたが、縁結びのまち、神々の集うまち出雲の治安維持のため、職員一同頑張っております。出雲地区保護司会の皆様をはじめ、市民の方々の一層の御支援・御協力をお願いします。

平成30年度 「社会を明るくする運動」 標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部（出雲市青少年育成市民会議との共催）として募集しました。一般は109点、小学生は343点、中学生は182点の応募がありました。

また、島根県社会を明るくする運動推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から110点、中学生から28点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。たくさんの応募をありがとうございました。

一般の部

最優秀賞

立ち直る

君の決意に社会の支援

芦渡町 石橋 厚

優秀賞

あいさつは

心を開く パスワード

斐川町 大森 茂樹

「ありがとう」

言って言われて

いい気持ち

斐川町 大森 淳平

一人じゃない

希望を持って 立ちあがる

斐川町 松村 豊志

傷つく子

同じ目線で 寄り添って

天神町 周藤 千雪

認め合おう

みんな違った 個性だよ

東福町 岩本ヒロ子

佳作

おたがいさま

みんなが思えば

明るい社会

斐川町 大森 咲希

家族愛

非行を防ぐ 魔法力

中野町 松田 行弘

認めてね、

長所も短所も「私」だよ。

園町 松本 文子

見守られ

育つ子どもは 地域の宝

斐川町 大森 真弓

スマホでは

見えては来ない 思いやり

下古志町 勝田 敦子

変わるよ

地域の皆で 見守るよ

大津町 山田明知子

思いやり

あなたの心に 届きたい

鹿園寺町 吾郷 佳子

「やめようね」

その一言が 優しい呪文

多久町 常松 誠

話してね

あなたの心の苦しみを！

佐田町 濱田 千春

許し合う

心が結ぶ 地域の輪

湖陵町 三原 知恵

小学生の部

最優秀賞

変わるのは
まわりじゃなくて
自分から

長浜小学校 五年 田原 劉征

優秀賞

あいさつは

心がかよう 第一歩

四絡小学校 四年 萬代 朔好

「いやだ。」って

話すゆう気も だいじだよ

須佐小学校 三年 長島 蒼空

佳作

わすれない

きみがくれた ありがとう

大津小学校 三年 山崎 歌子

あいさつで

地域をつつむ 笑顔の輪

大津小学校 六年 山尾 咲良

おもいやり

にっこりえがおが

ひろがるよ

長浜小学校 一年 藤井 芽依

咲かせよう

やさしい言葉で

笑顔の花を

長浜小学校 五年 梶谷 匠汰

見つけよう

人それぞれの いいところ

長浜小学校 六年 藤江 桃花

「じゅめんなやう」

言えたあなたは 金メダル

四絡小学校 二年 吉井 南瀬

おもいやり みんながもてば

すてきな世界

東小学校 六年 平井 勇心

あいさつを

きちんとできる

きみがすぎ

窪田小学校 二年 岡田 琉生

みつけたよ

ひとりひとりの

いっところ

須佐小学校 一年 長島 章久

やめようよ

関係ないふり 見ないふり

遥堪小学校 六年 三原 麻愛

中学生の部

最優秀賞

守ろうよ

地域の安全 あいさつで

南中学校 一年 高橋 飛翔

優秀賞

あきらめず

声をかければ 輪ができる

大社中学校 一年 宮本 英幸

傍観者、

一緒にあなたも

いじめる

斐川西中学校 二年 川田 明大

佳作

探そうよ

自分と人の よいところ

第一中学校 一年 伊藤 力人

自分から

広げていこう 笑顔の輪

第一中学校 三年 吾郷 泰紀

一人じゃない

気付いて 人との結びつき

南中学校 一年 飯塚 心美

「ありがとう」

みんな笑顔で 明るい社会

南中学校 二年 前田 凌太

見逃すな

友達からの SOS

南中学校 三年 松本 琉利

一人じゃない

君を思う人 すぐそばに

南中学校 三年 吉井 菜悠

よりそう手

やさしさあふれ

一人じゃない

大社中学校 一年 池田 乙葉

気付いてる?

あの子の心の SOS

大社中学校 二年 佐藤 綸

先ばいが

笑顔であいさつ

うれしいな

斐川西中学校 一年 影山 珠伎

目指そうよ

輝く個性 なくなるいじめ

斐川西中学校 二年 加藤 咲智

「社会を
明るく
する運動」

作文コンテスト優秀作品

小学校の部 島根県推進委員会委員長賞 (最優秀賞)

小さなことごと

出雲市立西田小学校 六年 米江琳香

わたしは、学校に行く前に朝の情
報番組をよく見ます。番組の初めに
大きく取り上げられるニュースは、
明るくハッピーな話題よりも、暗い
事件が多いです。わたしは、そんな
事件のニュースを見るたびに暗い
気持ちになります。なぜ、犯罪はな
くならないのでしょうか。

それは、人口減少や、人と人との
つながりが希薄になり、周りに見守
ってくださる人が少なくなってい
ましたからだとわたしは思います。
わたしの周りには、登下校時いつも
見守ってくださる地域の人がいま
す。声をかけてくださる大人がいま
す。だから、毎日安全で幸せな暮ら
しができると思います。また、学校
で勉強して家に帰ると温かくむか

えてくれる家族がいます。だから、
毎日楽しく暮らせると思います。
でも、犯罪をしてしまう人の周り
には、温かく声をかけてくれる人や
話を聞いてくれる人がいないのか
もしれません。自分に自信がなくな
った時、支えてくれる人がいないの
かもしれません。

わたしは、犯罪や非行のない社会
をつくるために、小さなことから取
り組んでみるのが大切だと思い
実行しています。

一つ目は、あいさつです。あいさ
つは、人の心を温かくしてくれま
す。登下校の時、遠くにいる人にも
あいさつをしてみることにしまし
た。

「みんなちはー」

「おかしなさい。」

このひとことだけで、笑顔になれ
るあいさつは、魔法の言葉です。こ
の短い会話で心が温まるので、これ
からも続けていきたいです。

二つ目は、空き缶拾いなどのごみ
ひろいをすることです。毎年、夏に
地域の奉仕作業に参加しています。
道端に落ちていたる缶やペットボト
ルなどを拾って歩き、ごみが無くな
った時は、すごくいい気持ちになり
ました。自分が住んでいる地域がき
れいになると、心もきれいになり
事件は起こらない気分になります。

犯罪や非行をなくすために必要な
ことは、これだけではないと思いま
す、だれにでも、優しく接したり、
みんなと仲良く遊んだりすること
も大切だと思います。一人でも、さ
みしい、つらい、悲しいと思う人を
減らせば、社会から犯罪や非行がな
くなり、明るい社会をめざせると思
います。

さらに、犯罪や非行をしてしまっ
た人がいたら、その人を立ち直らせ
る場所をつくってあげることが大
切だと思います。「罪を憎んで人を
憎まず」ということわざがありま
す。犯した罪は憎むべきだが、その

人が罪を犯すまでには、事情もあつ
たのだから、罪を犯した人その
ものまで憎んではいけないという
教えです。このことわざのように、
罪を犯した人は憎まず、その人が社
会に戻れるよう温かい環境を社会
全体でつくっていききたいです。普段
の生活でも、もし、だれかが、悪い
ことをし、叱られ落ち込んでいて
も、みんなで励まし合いお互いを高
め合うことで良いクラスをつくれ
ると思います。

これからの社会を担うわたした
ちが、少しでも社会を変えていける
ように、小さなことから取り組んで
いき、みんなで支え合い明るい社会
をめざしてがんばっていきたくた
です。

●その他の入賞者

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞(優秀賞)
**悩みかじめは一人一人の
意識で無くなる**

出雲市塩冶小学校 五年
井上優真

山陰中央新報社賞(優秀賞)
幸せをわけ合せて

出雲市稗原小学校 六年
柿本康陽

中学校の部 山陰中央新報社賞(優秀賞)

「生と死を見つめて」

出雲市立斐川西中学校 一年 川西柚葉

皆さんは、自分や周りの人の「命」について考えたことがありますか。そして「病氣」と聞いてどのようなことを考えますか。人それぞれ考えることは違うと思いますが、私は「病氣」と聞くと「死」ということについて考えます。

人の命には限りがあり、いつかは死を迎えます。寿命を全うした人、事故や災害に遭ってしまった人、そして病氣になった人などさまざまです。

たとえ病氣になったとしても治療によって元気になる人は少なくありません。私の家族にも、病氣になり辛い思いをした人がいます。それは、私の母です。

母は、私が小学校三年生の時に、「がん」という病氣になってしまいました。「がん」は色々な臓器に広がり、発見が遅れたら治療の施しよ
うがなく、「死」に至る可能性が高いのです。母の場合も見つかるのが

少しでも遅かったら「死」に至っていたのですが、その一歩手前で見つけることができましたので、治療することができました。でも、完全に治すにはとても長い時間が必要です。

「家族が一人でもいなくなってしまうたらどうしよう」と思い、とても不安でさみしい気持ちになりました。今まで、そばにいて普通に話していたことが当たり前だったのが、主に入院によって少しずつ会話を
する時間が減ってしまいました。そして初めて「命」の重み、「死」を意識したときに感じる不安や恐怖が押し寄せてきました。

一番辛い思いをしているのは母なのに、母はいつも笑顔で私の話を聞いてくれました。決して人前で涙を見せない母でしたが、きつと一人
でいるときは泣いているのだと思うととても心が痛かったです。

それから、
「辛かったら泣いてもいいんだ

よ」

と声をかけるようになりました。その時の私には母を慰めることしか
できませんでした。だから、毎日少しでもいいからその日あったことを話しました。

数か月がたち、手術の日が来ました。母はとても怖かったろうし、私達も不安でした。何時間にも及ぶ手術は無事成功しました。今まで感じたことのない気持ちになり、「生きる」ことがどれだけ大変でかけがえのないことなのかと思いました。

私は、今膝をケガしています。「なぜ自分だけがこんな思いをしないといけないのか」と疑問に思うこともあり
ます。しかし、そんな時にはいつも母が慰めてくれます。

人は守るものがあると強くなり、生きる力が湧いてきます。今の私は守られているばかりなので、失敗をしたり、嫌なことがあったりすると「消えたい」「逃げ出したい」など
思うことが何度もありました。でもこの先自分がどうしても守りたいと思える人ができたら、母のようにもつと強くなれるのかなと思いま
す。

人は、生まれた瞬間から死に向か

って生き続けています。過去にもう一度戻りたいと思ってもそれは絶対にできません。その時々を大切にしないと、後悔してからは遅いこともあります。

皆さんに伝えたいことが二つあります。

一つ目は、明日を生きたくても生きられない人がいるという現実を受け止めて、今ある命を大切に自分らしく生きてください。

二つ目は、今は子どもで守られてばかりいる私達も、いつかは誰かを守りたい、守らなければならぬという気持ちになる時が来るはずだ
ということですよ。

私達がこうして学校生活を送ったり、好きなことをしたりすることができるのは、大切に育ててくれる家族のおかげなのです。そして、私たちがこの世に生まれてきたことは奇跡のような確率で、とても素晴らしいことです。だから、今ある「命」を大切に、これからも強く生きていきたいと思います。

(株)出雲村田製作所

視察研修に参加して

研修部会長 三島 洪道

六月二十日(水)、保護司十四名で斐川町の(株)出雲村田製作所へ視察研修に行きました。この目的は、近在の大きな会社で電子部品を生産し多くの社員を雇用して、将来、就労支援の協力をお願いできるかどうか実状を知りたいとの思いからでした。

今回の研修の日程は、二十分間のプロジェクトによる説明、工場見学四十分、質疑応答の内容でした。(株)出雲村田製作所は昭和五十八



研修室での製造工程の説明

年八月、本社一〇〇%の出資による生産拠点として設立され、翌年四月、「セラミックコンデンサ」の開発・生産がはじまりました。村田製作所関係会社が生産する「積層セラミックコンデンサ」は世界の四十%のシェアを持ち、出雲村田はその半数近くを生産しています。本社、支社、事業

所、営業所、他に国内関係会社合わせて約五十社、海外には南北アメリカ、ヨーロッパ、中国、韓国、東南アジア諸国など世界に拠点をもち会社であります。「国内各地に工場が分散しているのは地震対策で、資材などの供給地と生産地は別であり、被害を最小限度にしたい考えです」とのことでした。

社員数は、平成三十年五月現在、四、〇二〇人、内男子三、〇〇〇人、女子一、〇二〇人。中でもブラジル人が一、六〇〇人と非常に多いのはなにか意味があるように思われますが、その他の国名と人数は不明です。「言葉の問題があるが通訳を採用して対応している」と。実際、「ブラジル人の家族の、成人を通訳として採用している」とのことでした。

設立当初より、環境整備にも関心があり、構内には椿(一二〇種)、桜、赤松林など緑化が進められています。より働きやすい環境でもありました。平成六年四月からは椿、桜まつりなどで一般に公開され、お茶の野点接待もあり、現在も続けられています。

施設の紹介では、社員の家族や地域の方を招待して構内を開放し、食事の接待などされ、また小学校にかけて科学学習や環境学習など指導講演をして地域貢献されています。

今回は、工場の中でもこの新しい製品の工程が見られるということで、平成二十八年に駐車場地に建てられたE二棟を、二班に分かれて案内していただきました。

生産工場内は、廊下(通路)と仕切られ、クリーンな状態に保たれていました。作業中の事故について、「機械ですから当然怪我也あり、事故災害が心配されますが、改良を重ねて、カバーを下げ両手を乗せると動き、上げると止まるようにされております。事故が起きると直ぐに他の工場に通知され、同じ事故が起きないようにしています」と話され、作業効率や完成度チェック、社員の安全に関する点なども有意義な見学が出来たと思えました。

特級技能士、一級〜四級技能士まで、国家資格取得者の表があり、名前が貼り出してありました。

見学を通して、「会社にとつての重要なことは雇用した社員」であり、社員が就労し易い環境、厚生面から、安全、会社に貢献する意欲が高まるように整えられており、結果、技術力向上に繋がり、良い製品が出来るのではないかと思います。

質疑応答の時間、皆さんはそれぞれ質問をし、応答していただきました。以上、聞き書きしたことを報告し、案内していただいた佐藤女史に感謝を申しあげたいと思います。

尚、後日、インターネットでハローワークを検索、(株)出雲村田製作所の求人募集を調べました。技術系、一般職、施設警備、空調関係、生産設備の保守・改良等、種々多様な募集が行われており、就労支援に結びつく可能性を感じました。



(株)出雲村田製作所視察

《「ひまわりの譜」のメッセージ》を聞いて

保護司 加地 崇 志 (犯罪予防部会)

第六十八回「社会を明るくする運動」及び平成三十年「青少年の非行・被害防止全国強調月間」メッセージ伝達式と啓発講演会が、七月二日に出雲市役所「くにびき大ホール」において開催されました。

啓発講演会には、歌手で保護司でもある五島つばき氏をお迎えし、「ひまわりの譜のメッセージ」と題し、杜明運動の応援歌四曲を熱唱しながらのお話を伺いました。



講演中の五島つばきさん

五島氏は、デビュー以来「社会を明るくする運動」に積極的に参加し、運動を推進する作品を歌ってこられ、「歌は世界共通の文化です。歌を通じて何かを伝える事が出来るのであれば、それは私の役割であり、使命です。少しでも多くの皆さんに更生保護に関心を持ってもらい、この歌を口ずさんでいただけるよう活動したい」と熱い思いを語られました。心にしみこむ歌と伸びやかな歌声は感動的で、会場を魅了しました。

それぞれの応援歌に込められたキーとなるフレーズは、心に響くメッセージでした。

人は皆、生かされて生きてゆく《ひまわりの譜》

♪あなたの愛を信じたい、生きる力の湧き泉・・・♪で始まる「ひまわりの譜」は人は皆、人との関わりの中で、生かされ、生きています。お互いに支え、支えられている事に感謝し、「生きる喜びを誰もが感じる

事」の大切さを呼びかけています。この譜のようにみんなが思いやりや愛をもって、手をつなぎ、心を通わせながら、「人として生かされていく」ことによって、「社会を明るくする」道が開けると感じたところです。

君は、ひとりじゃない《君への伝言》

♪君が鳥なら 私は風になる・・・♪で始まる「君への伝言」では、悩み事や辛い気持ちの時、また家族と心が離れ、孤立を感じた時に、一人で抱え込まないでほしい。あなたに寄り添い、一緒に助けたい、あなたに寄り添っている人達がいます。青少年の健全な育成を願う、特に子供たちに伝えたい大切なメッセージです。

あなたの出発には限りない空が、そっとほほ笑む《あなたの出発》

『あなたの出発』の歌では、人の可能性を信じ、世の中に必要とされない人などいない。どんな所にも必ず生かされていく道がある。あなたの再出発を見守り、支えていきたいと訴えています。出会いによって、縁が結ばれ、それが絆に変わり、人生も変わる。明るい未来が待っている。人は変わる事を伝えていま

す。

この三つのメッセージは、更生保護活動の基になるもので、思いやり、支えあう精神の大切さを教えています。犯罪や非行をした人の心の問題を取り扱うことは、大変デリケートで、心労の大きい事ですが、困っている人や、支援を必要とする人達の心を理解し、共感し、「頑張ってください」、「何とかしてあげたい」という思いやりの気持ちを持つて一緒に歩もうとする姿勢が心を聞き、更生につながっていくと思います。

この譜から学んだ更生保護の心を胸に刻み、日々の活動に取り組みんでいきたいと思えます。最後に、歌唱指導を受けながら、全員で「ひまわりの譜」を大合唱。会場がひとつになり、盛り上がりました。歌うことで、元気が湧く。メロディに乗せて思いを伝えることで効果的な啓発となります。学校等で広く歌われ、輪が広がっていくと思えます。私たちも心をつなげて「社会を明るくする運動」の大切さを伝えていきたいと思えます。

ちよっこし
え話

保育園の生活は、日々発
見と驚きと笑いと涙の連続
といつてよいでしょう。

例えば、初めて立つちが

できた！初めてことばが出
た！気の合う友だちができ
た！自己主張できるようにな
った！など。そして、ぶ
つかり合いがあつて、自分

の立ち位置が徐々に分かつて
て、仲間が形成されていくので
す。一番良い例が、集合写真を
撮る時にいつも思うことが、中
心にいたがる子、周りにいたい
子、後ろにいたい子が分かりま
す。子どもたちの世界でも、人
間模様が見えてきます。私たち
が特に気に留めるのは、後ろで
目立たない子に、どう配慮して
自尊心を持たせていくかが、
子どもの役目と言つて良いかも
しれません。

そんな日々の中でよくある、
物の取り合いで手が出て泣かせ
られる場に合うこともありま
す。いつも泣かせられている子
がいたたまれず逆襲する場面に
合うと、いつも泣かしている子
は、ショックのあまりなかなか
着地点が見つからないばかりか
保護者のクレームもここからで
てくるのがよくあります。子
どものトラブルは「やめなさい」

では何の意味もないので、着地
点を見つけて、自分たちで解
決させていくことが大事になつ
てきます。

また、夕方のお迎えの時、多
くの子どもは、いの一番に保護
者に駆け寄つていきます。いつ
もいら立つているお母さんのこ
とばは「うざい！」「早くクツ履
いて！」「ほら、また・・・」

と汚い言葉の連続で、なんで優
しい言葉がでないだろうかと思
うことがあります。ある時、「明
日の土曜日はお姉ちゃんの小学
校の運動会ですよ。登園され
ますか、それとも欠席ですか？」
と保育士が尋ねると、母親は当
然のように「登園させます」と素
つ気なく答えました。するとそ
の子の「ぼくも運動会へ行く、だ
つてお母さんと一緒にいいよ」
との一言で、母親はハッと我に
返つてその子を抱きしめて泣き
崩れました。そばにいた保育士
もびつくりし、もらい泣きをし
てしまいました。

お母さんもストレス抱えてい
たんだろうし、子どもだって、一
日暮らして、やつと自分が出せ
るお母さんのそばにいたい気持
ちが表れジーンとききました。子
どもは皆幸せであつてほしいと
願う今日です。(M・I)

更生保護功労受彰者

(平成三十年)

瑞宝双光章

伊藤 皓元

中国地方更生保護委員会委員長表彰

石橋 敏昭 景山 大圓

藤田 努

中国地方保護司連盟会長表彰

高尾 彬 石飛 準

佐藤 道子 田部 敏雄

松江保護観察所長表彰

石飛 博雄 神門 保雄

中尾 亮 釜谷 治男

米田 敬止

島根県保護司会連合会会長表彰

植野 博巳 小林 郷史

加地 崇志 西尾 弘道

糸賀 大道

保護司の異動

◎退任

小林 郷史(出雲)

藤田 努(出雲)

足立 眞司(斐川)

(平成三十年十一月三十日付)

◎新任

坂本 裕太(出雲)

今岡 輝夫(斐川)

(平成三十年十二月一日付)

編集後記

出雲警察署荒薦章二署長の巻頭言
に、地域の安全・安心を守るために立
ち上がった青パト隊をはじめとした
ボランティア団体のことが書かれて
います。最近の青パト車両の多さに
特別違和感もない背景には、地域ぐ
るみの自主防犯意識の高さの表れが
あり、大変心強い限りです。

折しも、政府は次年度に深刻化す
る労働力不足のため、単純労働も含
む四万人超の外国人就労者受け入れ
を発表しました。今後、外国人の増
加が予想されるわが出雲市も、市長
自ら先頭に立つて、外国人との共生
社会をめざすと訴えています。治安
の問題も懸念される中、一人ひとりの
共生意識の高揚が、安全・安心にも
つながっていくと思います。

七月の啓発講演会で聴いた、五島つ
ばぎさんの「ひまわりの譜(うた)」の
歌詞をしっかりと胸に刻みながら、
新しい年を迎えたいと思っています。

(石飛博雄)